

Learning Methods and the Strength of the Distance Learning Department, MU : Consideration from Covid-19 Pandemic Support

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-04-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 本多, 勇 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1516 |

通信教育部の2020年度の対応

— 学修方法の強みと課題：2020年 Covid-19 パンデミック対応からの検討 —

本 多 勇

1. はじめに：2020年の状況から

2020（令和2）年は、新型コロナウイルス（Covid-19）感染対応と感染拡大防止のために、日本のみならず世界中が翻弄されている。日本では1月半ばに国内1例目の陽性事例が報告された後、感染者が拡大し、陽性者は全国で5月下旬には累計1万5,000人であったのが、12月には20万人を超えている。政府は、2020年3月13日に改正された新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づいて、4月7日に東京を含む首都圏・近畿・福岡の7都府県に「緊急事態宣言」が出された。同4月16日には、緊急事態宣言の対象地域が拡大された。5月中旬から下旬にかけて緊急事態宣言が解除された。武蔵野大学有明キャンパスの隣接エリアを含む都内で予定されていた2020東京オリンピック・パラリンピックも、翌年2021年に開催延期となった。

本学を含めた大学では、感染の拡大が始まった2019年度末の2020年1月から3月は春休み期間であったので、卒業式等の行事イベントが残念ながら中止になったものの、3月に急に休校措置が取られた小中学校・高校に比べ教員や学生の混乱は少なかった。3月24日に文部科学省の局長通知「令和2年度における大学等の授業の開始等について（通知）」において、「3つの条件（換気の悪い密閉空間，多くの人が密集，近距離での会話や発話）」いわゆる「3密（3つの密＝密閉、密集、密接）」を徹底的に回避する対策が不可欠であり、万全の感染症対策が求められた。2020（令和2）年度の春学期は、本学を含む首都圏の大学は対面授業を回避する対応がとられた。

本稿では、本学通信教育部の概要を記したうえで、2020年度のCovid-19対応について記録しておきたい。そのうえで、2020年度の対応を通じて見えてきた通信教育部の課題について整理しておく。主に学部課程を中心に議論することとしたい。

2. 武蔵野大学通信教育部の全体像

(1) 通信教育部の概要

まず、本学通信教育部の概要について整理しておく。

1924（大正13）年に築地本願寺の境内に設立された武蔵野女子学院は、1929（昭和4）年、保谷村（現在の西東京市・武蔵野キャンパス）に移転された。1950（昭和25）年に武蔵野女子短期大学が設立され、その後1965（昭和40）年に、武蔵野女子大学が文学部（日本文学科と英米文学科）の1学部2学科で短期大学から発展・設立された。そこから30年経て、1995（平成7）

年に文学部に人間関係学科が設置された（1学部3学科体制）。1998（平成10）年には現代社会学部（現代社会学科と社会福祉学科）が設置され（2学部5学科）、さらに1999（平成11）年には人間関係学部（人間関係学科）が設置され3学部体制となった。

その後、2002（平成14）年に通信教育部「人間関係学部人間関係学科心理学専攻」が設置され、通信教育部の歩みが始まった。2005（平成17）年には「人間学専攻（のちの仏教学専攻）」が開設、2008（平成20）年に科目履修で学位取得を目指す「看護学コース」が開設、2011（平成23）年に「社会福祉専攻」が開設された。2013（平成25）年には「教育学部児童教育学科（小学校専修、国語科専修、英語科専修）」が開設された。大学院通信教育部も2009（平成21）年に設置された。（表1参照）

表1 武蔵野大学および通信教育部の歩み

| 年 | 出来事（※【通信】は通信教育部に係る事項） |
|------------|--|
| 1924 (T13) | 東京都中央区築地に「武蔵野女子学院」を創設。 |
| 1927 (S2) | 高等女学校を設立。 |
| 1950 (S25) | 武蔵野女子短期大学を設立（文科国文専攻・英文専攻、家政科）。 |
| 1965 (S40) | 武蔵野女子大学設立（文学部：日本文学科、英米文学科）。1学部。 |
| 1995 (H7) | 文学部に人間関係学科設置（文学部：3学科）。 |
| 1998 (H10) | 現代社会学部（現代社会学科、社会福祉学科）設置。2学部。 |
| 1999 (H11) | 人間関係学部（人間関係学科）に独立。3学部。 |
| 2002 (H14) | 【通信】通信教育部人間関係学部人間関係学科 心理学専攻 開設。 |
| 2003 (H15) | 武蔵野大学に名称変更。 |
| 2004 (H16) | 通学制は男女共学化。薬学部設置、4学部。 |
| 2005 (H17) | 【通信】人間関係学科人間学専攻（現仏教学専攻）開設。 |
| 2006 (H18) | 通学制は看護学部設置。5学部。 |
| 2008 (H20) | 【通信】看護学コース（科目等履修生コース）開設。 通学制は政治経済学部設置。6学部。 |
| 2009 (H21) | 【通信】大学院通信教育部人間学研究科人間学専攻（修士課程）設置。 |
| 2011 (H23) | 【通信】人間関係学科社会福祉専攻開設。人間学専攻を仏教学専攻に名称変更。 |
| | 通学制はグローバル・コミュニケーション学部と教育学部が増え8学部。 |
| 2012 (H24) | 【通信】人間関係学部（人間関係学科）を人間科学部（人間科学科）に名称変更。大学院通信教育部人間学研究科に仏教学専攻（修士課程）設置。 |
| 2013 (H25) | 【通信】教育学部児童教育学科を設置。通信教育部も2学部。 |
| 2014 (H26) | 【通信】浄土真宗本願寺派教師資格コース（科目等履修生コース）開設。大学院通信教育部に環境学研究科環境マネジメント専攻（修士課程）を設置。秋入学制度開始。 |
| | 通学制は政治経済学部が法学部と経済学部に改組され9学部。 |
| 2016 (H28) | 大学新ブランド「世界の幸せをカタチにする。」 |
| | 【通信】大学院通信教育部人間学研究科仏教学専攻（修士課程）を仏教学研究科仏教学専攻（修士課程）に改組。 |

| | |
|-----------------|--|
| 2018 (H30) | 【通信】大学院通信教育部の人間学研究科を人間社会研究科に名称変更。 大学院通信教育部に人間社会研究科実践福祉学専攻（修士課程）を設置。 |
| 2019 (H31 / R1) | 通学制はデータサイエンス学部と経営学部設置により11学部に。 教育学部児童教育学科を教育学科に名称変更（通学課程・【通信】課程）。 |

(2) 学部学科および教員の配置

2020年度現在、人間科学部人間科学科には、心理学専攻、仏教学専攻、社会福祉専攻が設置されている。教育学部教育学科には小学校専修、国語科専修、英語科専修が設置されている。それぞれ1年次入学と編入制度が設けられている。そして人間科学科の科目等履修生コースに看護学コースと本願寺派教師資格コースがある。

心理学専攻では、認定心理士資格取得要件を満たすカリキュラムを設置している。現在は、履修の希望領域によって5つのコース（①スタンダード心理学コース、②臨床発達心理コース、③カウンセリングコース、④看護・医療心理コース、⑤産業カウンセリング／キャリア・コンサルティングコース）から入学・編入時に選択する。社会福祉専攻は、国家資格社会福祉士の受験資格を取得できるカリキュラムになっている。教育学科は、小学校専修では小学校教諭一種免許状、国語科専修では中学校・高校の国語科の教諭一種免許状（高校は書道科も）、英語科専修では中学校・高校の英語科教諭一種免許状が取得できるカリキュラムである。

看護学コースは、大学改革支援・学位授与機構に看護学学士の取得申請ができる科目群が履修できる。本願寺派教師資格コースは、浄土真宗本願寺派の「教師」資格取得のための科目が履修できる。

表2 武蔵野大学通信教育部の学部学科構成

| 学部 | 学科 | 専攻・専修 | 正課生 | 正課生（編入生） | 科目等履修生 |
|-------|-------|-------------|-------|-----------------------------|--------|
| 人間科学部 | 人間科学科 | 心理学専攻 | 1年次入学 | 3年次編入 4年次編入 | ○ |
| | | 仏教学専攻 | 1年次入学 | 3年次編入 | ○ |
| | | 社会福祉専攻 | 1年次入学 | 3年次編入 4年次編入 | ○ |
| | | 看護学コース | — | — | ○ |
| | | 本願寺派教師資格コース | — | — | ○ |
| 教育学部 | 教育学科 | 小学校専修 | 1年次入学 | 3年次編入 ※2021年度より 2年次編入 | ○ |
| | | 国語科専修 | | | ○ |
| | | 英語科専修 | | | ○ |

通信教育部専任教員として、人間科学科の各専攻担当として8名の教員が配置されている。心理学専攻は野口普子准教授、松野航大助教、川島哲助教が主に担当している。仏教学専攻は主に前田壽雄准教授が、社会福祉専攻は前廣美保准教授と筆者が、大学院人間社会研究科長は佐藤裕

之教授がそれぞれ担当している。教育学科は、通学制の教育学科の専任教員が担当している。

学部課程2学部の全履修科目は279科目ある。通信教育部（人間科学科）専任教員8名を軸にして、本学通学制専任との兼任教員42名、非常勤教員155名（人間科学科科目担当84名、人間科学科レポート添削担当非常勤教員35名、教育学科科目担当36名）により、通信教育部の教育が支えられている。

(3) 学生の在籍状況

2020年度の学生の在籍状況は表3の通りである。通信教育部では秋卒業の学生と秋入学の学生も一定数存在している。表3の数値は、秋卒業と秋入学が両方含まれており、実質の数字と若干異なっている。また、看護学コースは、人間科学科正課生との同時出願が可能であるため、一部学生はダブルカウントとなり延べ数となる。

学部課程の在籍者は、人間科学部3,966名（延べ数）、教育学部403名であった。大学院通信教育部修士課程は、全体で361名であった。

2020年度現在の在籍者は約4,700人である。2002年開設初年度の在籍者数は約1,400人、2年目2003年は2,900人弱、であった。2008～2010年頃は約6,500人の在籍者があった。2014年度以降は5,000人前後で推移している（2018年度は5,500人強）。

表3 武蔵野大学通信教育部および大学院通信教育部の在籍者数*（2020年度）

| 学部・研究科 | 学科 | 専攻・専修 | 在籍者数 (正課生・科目等履修生含む) |
|---------|-------|--------------------|------------------------|
| 人間科学部 | 人間科学科 | 心理学専攻 | 2,407 |
| | | 仏教学専攻（人間学専攻含む） | 133 |
| | | 社会福祉専攻 | 570 |
| | | 看護学コース（科目等履修）*** | 845 |
| | | 本願寺派教師資格コース（科目等履修） | 11 |
| 教育学部 | 教育学科 | 小学校専修 | 70 |
| | | 国語科専修 | 96 |
| | | 英語科専修 | 237 |
| 人間社会研究科 | | 人間学専攻（修士） | 233 |
| | | 実践福祉学専攻（修士） | 27 |
| 環境学研究科 | | 環境マネジメント専攻（修士） | 35 |
| 仏教学研究科 | | 仏教学専攻（修士） | 66 |
| 計（延べ数） | | | 4,729 |

*秋卒業者および秋入学者を含めた総在籍者

***看護学コースは、人間科学科正課生との同時出願が可能であるため、延べ数となる。

通信教育部は、編入学制度がある。大学や短大、専門学校を卒業し、就職して実務や実践を経

験した、いわゆる社会人学生のリカレント教育、学び直しの学生の編入を想定している。実際、表4のように、人間科学科は約7割（70.7%）が3年次ないし4年次の編入学生である。教育学科についても、約8割（80.1%）が3年次編入学生である。専攻によって、その割合に多少の違いがある。

表4 各専攻およびコースの編入生割合（2020年度）

| 学部・学科 | 専攻・専修・コース | 1年次入学生 | 編入生（計） | 編入生 | |
|----------------|-------------------------|--------|--------|--------|--------|
| | | | | 3年次編入生 | 4年次編入生 |
| 人間科学部 人間科学科 | 心理、仏教、 社会福祉 計 | 897人 | 2,167 | 1,467 | 700 |
| | | 29.3% | 70.7% | 47.9% | 22.8% |
| | 心理学専攻 | 699人 | 1,670 | 1,088 | 582 |
| | | 29.5% | 70.5% | 45.9% | 24.6% |
| | 仏教学専攻 | 46人 | 79 | 79 | — |
| | | 36.8% | 63.2% | 63.2% | — |
| 社会福祉専攻 | 152人 | 418 | 300 | 118 | |
| | 26.7% | 73.3% | 52.6% | 20.7% | |
| 教育学部 教育学科 | 小学校専修 国語科専修 英語科専修 | 59人 | 237 | 237 | — |
| | | 19.9% | 80.1% | 80.1% | — |

通信教育部は、編入学制度により社会人学生の入学・編入学生を主なターゲットとして想定している。通学制のようないわゆる18歳人口の獲得をあまり想定していないともいえる。そのため、通信教育部の学生は、その年代の範囲は広い。表5のように、専攻によってばらつきがある。各専攻のボリュームゾーンはそれぞれ、心理学専攻と社会福祉専攻が40代、仏教学専攻が50代、看護学コースは30代、教育学科は20代である。10代（18・19歳）は各専攻とも0～1.5%であった。10代と20代まで含めると、教育学科と心理学専攻の比率が高めである。一方、70代の学生も少数在籍している。80代の在籍は学部課程にはいなかった（表5に記載はないが大学院仏教学専攻に在籍者がいる）。

各専攻・コース等の学修内容や、それ以前の入学動機が異なっていることから、学生の年代とそのボリュームゾーンが異なっているととらえられる。

表5 各専攻およびコースの年代割合 (2020年度)

| 学部・学科 | 専攻・専修・コース | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 |
|----------------|----------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|------------|
| 人間科学部 人間科学科 | 心理学専攻 | 36人 1.5% | 468 19.4% | 395 16.4% | 821 34.1% | 591 24.6% | 77 3.2% | 19 0.8% |
| | 仏教学専攻 | 1人 0.8% | 5 3.8% | 8 6.1% | 34 25.8% | 44 33.3% | 29 22.0% | 11 8.3% |
| | 社会福祉専攻 | 2人 0.4% | 79 13.9% | 102 17.9% | 189 33.2% | 162 28.4% | 34 6.0% | 2 0.4% |
| | 看護学コース | 0人 0.0% | 135 16.0% | 268 31.7% | 347 41.1% | 87 10.3% | 8 0.9% | 0 0.0% |
| 教育学部 教育学科 | 小学校専修 | 4人 | 153 | 93 | 98 | 43 | 10 | 2 |
| | 国語科専修 英語科専修 | 1.0% | 38.0% | 23.1% | 24.3% | 10.7% | 2.5% | 0.5% |

※ 80代以上は在籍なし（大学院仏教学専攻に在籍あり）。

(4) 学修の方法

本学通信教育部での学修は、開設2002年以来、インターネット上の通信教育システム「WBT (Web Based Training)」というLMS (Learning Management System) を基軸にしている。各科目には、教科書(テキスト)や参考書、補助教材(「スタディガイド」)が設定されている。

「WBT」を介する「テスト」科目と「レポート」科目は、大学通信教育設置基準第3条における「印刷教材等による授業」である。「テスト」科目は、テキストやスタディガイド等の学修内容の進捗によって、知識の確認のための設定された選択式の練習問題(「エクササイズ」)を行い知識の蓄積・定着を図る。「レポート」科目は、科目によって設定される課題についてのレポート(小論文)を作成、提出し論理的思考や文章表現能力の醸成を図る。提出されたレポートは科目担当者によって添削返却され、合格のレベルに達していない場合は修正再提出が求められる。

「スクーリング」科目は、大学の教室において行われる講義や演習等の授業に出席参加したり、教育実習や社会福祉実習などの現場実習に出席したりする科目である。一部の講義系のスクーリング科目は授業の録画をWBTで視聴する「メディア」授業で代替することができる。前者は、大学通信教育設置基準第3条における「面接授業」であり、後者は同じく「メディアを利用して行う授業」である。「スクーリング」では、アクティブな思考と言語的表現の醸成を図る。

履修内容やその学修のねらいによって、「スクーリング・レポート」「スクーリング・テスト」「スクーリング・テスト・レポート」など複数の学修方法を採用している科目もある。

3. 2020年度の対応

2020（令和2）年および2020年度は、新型コロナウイルス（Covid-19）感染およびその対策で社会全体が翻弄されている。大学全体および通信教育部の対応についてまとめておきたい。

(1) 大学全体の対応（一部）

2019年度末の3/23（月）に学長名で「新型コロナウイルス感染拡大に伴う、ガイダンスおよび授業の対応について」が配信された。すでに卒業式・修了式や2020年度の入学式の中止が決められていた。また4月以降の登校禁止（指示）の方針も決められた。

通学制課程においては、4月の初めから授業日程を変更することなく春学期（1学期・2学期）はオンライン授業が導入された。そのバックアップサポートとして、全学の情報・メディア教育の推進に関する企画及び実施や情報・メディア戦略の企画及び推進を行う「MUSIC（Musashino University Smart Intelligence Center）」により「オンライン授業実施に関する支援サイト」が立ち上げられた。夏期休業を挟み、秋学期（3学期）からは、1年生の少人数授業（演習・ゼミ等）の対面授業が再開された。4学期は、2年生以上の少人数授業も開始される方針である。

(2) 通信教育部の対応

① イベント等の開催方法変更

2020/3/16（月）卒業式（全学）および3/17（火）の大学院修了式（全学）は中止となり、希望者に教室で卒業証書（修了証書）の配布のみを行った。

その後、3/30（月）に「通信教育部長メッセージ」をWBTで在学生および入学予定者に向けて発信した。コロナ禍での履修開始の不安を払しょくすること、この状況は大学ブランドである「世界の幸せをカタチにする」ことの機会としてももらいたいこと、などをねらいとした。

入学式のない通信教育部は例年、大学武蔵野キャンパスにおいて、通信教育の履修の方法についてのオリエンテーションと、学生及び卒業生との交流会のある「新入生懇談会」を行っている。4/5（日）に予定していた対面の「新入生懇談会」は中止とした。その代替として、各専攻で履修のスタートアップに関する動画を作成し公開した。また5/31（日）にテレビ会議システムZoomを用いての「オンライン新入生懇談会」を実施した。参加希望学生は、117人であった（当日不参加者を除く）。秋入学者向けの「新入生懇談会／Zoom練習会」についても10/3（土）に行った。

例年10月から12月にかけて専任教員と通信教育部事務職員が、札幌・大阪・福岡に出張し、その周辺地域の学生・卒業生に向けた特別授業と交流会、入学希望者への入学相談を行う「地域懇談会」は、中止とした。その代替としてZoomを用いた「オンライン懇談会」を7月から10月まで計4回開催した。各回テーマを設けた講義と、少人数でのブレイクアウトセッションを使ったグループディスカッションを行った。例年の地域懇談会では、開催各都市へ出やすい学生に限定されていたが、オンラインでの開催は地域の制約なく、遠くは海外在住の学生の参加も可能となった。

秋（例年11月）と年度末（2/11（祝））に、在学生の学修の進め方等の悩みについて専任教員

が対応する「学習相談会」についても、本年度はZoomを使用する「オンライン学習相談会」に実施方法を変更して開催することとなった。例年武蔵野キャンパスで対面相談の形式で行っているため、遠方の学生には参加のハードルがあったが、オンラインにて行うことで参加の利便性が高まった。

そのほか、入学希望者に向けた「入学相談会」や学内・学科内の会議、卒業研究や大学院特定課題研究など成果発表会、通信教育部シンポジウム等についても、2020年度はオンラインでの開催（一部予定）となっている。

②スクーリング授業の方法変更

授業について、テスト科目とレポート科目は、特に変更することなく例年通り4月15日から履修が開始された。WBTにて学修するテストやレポートは、対応の変更等のコロナ禍による影響をうけることはなかったといえる。

一方、スクーリング科目は、その対応について大きな変更を行う必要があった。例年、スクーリング授業は、6月から7月までの土日（週末）、通学制の授業のない夏期間（7月末から9月の土日を含めた4日間1クール）、秋（11月から12月）の土日（週末）、を中心的に開講される。一部社会福祉専攻の演習スクーリング授業は4月末の土日から開講が始まる。

2020年度のスクーリングは、通学制を中心とした全学の方針に合わせ4・5月にあった社会福祉専攻のスクーリング授業の開講時期を6月以降に日程変更した。この間、事態は好転せず対面授業実施は困難な状況が続いたため、6月以降のスクーリング授業の方法変更について、各科目担当教員との調整を行い、学生に周知した。

スクーリング授業の実施方法変更は、表6の通りである。

表6 スクーリング授業の方法変更（2020年度：学部課程のみ）

| 変更方法 | 春学期期間・秋期間土日（週末） スクーリング | 夏期間スクーリング |
|------------------------------------|--------------------------------|-----------|
| オンデマンド型（課題提示・授業内レポート、動画配信等） | 5科目 | 4科目 |
| 双方向オンライン型（Zoom等の双方向授業中心、課題提示も含む） | 12科目 | 22科目 |
| メディア授業に変更（対面授業中止） | 5科目 | 8科目 |
| スクーリング（対面授業）実施 ※一部対面・一部オンラインも含む | 4科目（社会福祉実習、同実習指導1、同実習指導2、勤式作法） | 1科目（布教法） |
| 開講中止 | 2科目（坐禅研修、念仏研修） | 1科目（実践仏教） |

動画コンテンツを視聴する「メディア授業」のみの開講とした科目もあった（計13科目）。一部のスクーリング科目は、学生が、武蔵野キャンパスで開講されるスクーリング授業の受講（参加）か、大学キャンパスに行かずWBT上の授業動画視聴を行うメディア授業の視聴受講か、年度の初めに選択登録する。メディア授業コンテンツのある科目では、オンラインスクーリング授

業ではなく、履修者全員にメディア授業視聴の方法をとってもらった方法をとった。

開講中止とした科目もあった（3科目）。仏教学専攻の「実践仏教」「念仏研修」「坐禅研修」である（他専攻の履修も可能である）。「実践仏教」は武蔵野キャンパス内の和室教室で、坐禅・声明・写経等の仏教実践を経験する科目である。「念仏研修」は京都・西本願寺にて浄土真宗本願寺派に触れる実践的研修を行う科目である。「坐禅研修」は横浜鶴見・總持寺において曹洞宗の坐禅体験を行う科目である。どの科目も、開講時期や移動時の困難、大学や寺院の入構の制限・困難があり、やむなく開講中止とした。

時期や方法等を変更し、学内の確認を経て、対面スクーリングを行った科目が少数あった（5科目）。いずれも資格にかかわる実践実習科目である。社会福祉専攻の「社会福祉実習」と「社会福祉実習指導1・実習指導2」は、社会福祉士の現場実習とその事前指導および実習中訪問指導の科目である。仏教学専攻・本願寺派教師資格コースの「布教法」と「勤式作法」は、浄土真宗本願寺派における寺院の住職や布教使になるための実践科目である。寺院での実践実習が含まれている。これらの科目はオンラインでの開講が難しい内容であり、感染予防対策を講じて実習を行った。なお、「社会福祉実習」は、実習配属施設の都合等により現場実習が難しくなった履修者に対して、実習代替プログラムを用意し、現場実習と同等の実践的視点・思考を身につけるためのオンライン授業も該当者に開講した。

③ Zoom 練習会等の開催

5/31（日）に、オンラインでのスクーリングを準備するための、非常勤教員向けの「オンラインFD」を開催し、オンラインでのスクーリング授業を行うためのWBTの活用法とZoomの基本的な使い方について共有した。通学制のオンライン授業は、ZoomやGoogle Classroomを推奨していた（のちにMicrosoft Teamsも加わった）。通学制との兼任教員、通学制の科目も担当している非常勤教員（加えて他大学のオンライン授業に慣れている非常勤教員）は、通信教育部で推奨するZoomの使用は抵抗感がなかったようであった。一部の非常勤教員は、通信教育部のスクーリング授業が初めてのオンライン授業だったため、この「オンラインFD」は有意義であった。

また、7/12（日）には学生対象の「Zoom説明会」を開催した。この時点では、テレビ会議アプリケーション「Zoom」になじみのない学生も少なくなかった。Zoomアプリの簡単な説明と基本的な使用方法の説明と練習体験（名前の変更、ミュートやビデオ画像のON・OFFの仕方、ブレイクアウトセッション）を行った。通信教育部の学生に対しては、入学前の段階でパソコンのネット環境についてテスト科目の試験受講やメディア視聴もあるため、高速回線を推奨しており、テレビ会議システムZoom等双方向通信について、比較的導入は容易であった。一方高年齢の学生の一部に、新しいアプリケーション使用の抵抗感や戸惑いも「説明会」では見られた。ただ、この練習の機会があったことで、オンラインスクーリング受講の抵抗感の軽減を図ることができた。

④ G-suite アカウント付与

大学内のIT関連整備・維持を所管する情報システム管理課の尽力により、7月より通信教育部学生にも、大学のG-suite（Google）アカウントが付与されるようになった（大学院生には付与されていた）。それまで、入学前に通信教育部に登録していたメールアドレスのみで対応して

いたが、一律に大学アカウントが付与されることで、Google Classroomをはじめとする Google アプリケーションを使用することができるようになった。通学制科目で Google Classroom を使用している教員には利便性が高くなった。

4. 見出された課題

おおまかに、通信教育部の2020年度の対応について記してきた。この度の対応を経ていくつも見出された強みと課題について列記して整理しておきたい。通信教育部内での共有事項と、筆者自身の授業経験からのものである。

(1) オンラインによるスクーリング授業

従来の大学キャンパスにおける対面授業スクーリングは、オンラインによる授業方法に大幅に変更になった。

①双方向型授業（Zoom等による授業）

メリットとしては、何より空間的制約をうけないことが大きい。「印刷教材授業」と同様に、距離の隔たりのハードルが下がった。大学キャンパスでのスクーリングは、関東・首都圏以外の学生は前泊やスクーリング期間の宿泊が必要になるが、オンライン授業では学生の自宅から授業にアクセスすることができた。仕事の合間に、職場等から授業にアクセス・参加した学生もいた。

学生からは、担当教員や他受講者の顔が見えやすく、チャット機能等を使って質問・質疑応答がしやすい、という意見も聞かれた。授業の進度も、対面スクーリング授業に比べるとゆっくり進行することもあった。次年度（2021年度）以降、コロナ禍が解消しても、オンライン（双方向）授業を履修したい、残してほしい、という意見も聞かれた。

一方で、マイクの音声拾えが悪い、画面がオンにならない、インターネット回線が安定しない、などシステム上のトラブルの対処の困難と対応時のタイムロスについての課題が残る。また、演習授業などの際に、少人数の「ブレイクアウトセッション」機能を用いたグループワークでは、教員が各セッショングループに視きにいかなければならず、全体を俯瞰的に把握することは難しかった。さらに、学生がビデオ（画像）オフにしてしまった場合や、セッションオフの個人ワークの時間などは学生の動向が把握できず（見えず）、休憩のような時間になってしまうケースもあった。

その他、オンライン授業の抵抗感から、「レポート」（印刷教材授業）の履修方法に選択を変更した学生もいた。オンライン授業ということ自体で学生に心理的な負担をかけている可能性もある。

②オンデマンド型授業

2020年度は、オンデマンド型授業内レポートを課した科目もあった。WBTを介さず、大学G-suiteアカウント等を利用して、課題レポートを提出する方法であった。スクーリング授業の代替ではあるが、WBTに設定された「レポート」とは異なるレポートであり、学生も提出レポートが重複したり、教員にとっても採点評価が煩雑になってしまった側面があった。

双方向型授業と異なり、教員と学生が授業コンテンツに同じ時間に向き合っていないことがある。そのため、即時に授業課題に対する質問を受け対応したり、理解を深めたりする方法や機会について、双方向型授業よりも対応を厚めにする必要がありそうである。

(2) LMS「WBT」と汎用アプリケーションとの連携

「WBT」は、通信教育部の基盤LMSとして位置づけられている。テスト科目やレポート科目の学修等、従来の通信教育部の設定した学修方法の範囲であれば、大きな支障なく使用が継続できる。一方、Zoom、Google Meet、Microsoft Teamsなどのテレビ会議システム、slackやStockなどのチャットやデータ保存共有機能のあるアプリケーション、YouTubeなどの動画共有コンテンツなど、2020年度に利用頻度の上がったアプリケーションとの互換性やデータ連携が難しいことが確認された。

WBTと他のアプリケーション等を、どのように使い分け、学生にも教員にもわかりやすく効率的に使用していくか、が課題である。WBTの機能の改善・修正も検討課題である。

(3) 繋がり・ネットワーク構築支援の必要性

オンライン授業は、授業中はZoom等画面上で同じ時間を過ごすことができるが、授業やイベントがオフ（休憩）になった瞬間に（画面ビデオもオフにしてしまい）、履修者個人の時間・空間に戻ってしまう。同じ場所・空間に在ることのできる、インフォーマルな雑談をしたり、連絡先を交換し合ったりして、学生同士の間合い・関係を近づけていくことが、Zoomオンラインだと難しいことが分かった。

学生同士の（インフォーマルな）関係が近づきにくいまま、授業等の時間が過ぎて友人関係を深められないと、「孤独」な状況のまま学修を進めることになり、情報の共有、卒業後のネットワーク構築の困難さに響くことがある。特に入学・編入学間もない学生は、オンライン上においても、（インフォーマルな）関係を作るきっかけをどのように備えられるか、引き続きの課題である。

(4) 通信教育課程の強み

通信教育部は「テスト」「レポート」の印刷教材授業が多くを占めている。「メディア授業」も含めて、学生自身の場所で学修をすすめることができる。面接授業である「スクーリング」も、その科目内容によりオンラインで行うことができれば、登校する必要はなくなる。新型コロナウイルス対策について、移動しない、同じ場所にいないため、「3密」にならず、「感染」のリスクはなくなる。感染対策だけでなく、移動の制約、場所の制約、そして時間の制約も軽減される。

一方、同じ場所にいることで醸成される、学修の理解の深まり、対人支援スキルの深まり、対人関係の中での学修者（学生）や教員の自己洞察力の深まり、学生・卒業生ネットワークの拡がりなどは、印刷教材授業やメディア授業では難しい。双方向型オンライン授業でも限界がある。

コロナ禍の状況においては社会状況や大学の方針に従いつつ、そしてコロナ禍の後においても、各科目のねらいや内容により、従前の対面授業（「スクーリング」）、印刷教材授業（「テスト」「レポート」）、メディア授業だけでなく、引き続きオンラインの授業方法を組み込んで継続

することが求められる。

最後に

武蔵野大学通信教育部の歩みと現状を整理したうえで、2020年度のCovid-19対応の現状について整理してみた。原稿入稿の時期以降にも、社会状況によって予定が変更になることも考えられる。

2021年度も、新型コロナウイルス感染対応を組み込んだ対応が続きそうである。引き続き、最善の対応を模索しながら、学生への教育の機会の提供を行い、「世界は幸せか」と問いを立てて「世界の幸せをカタチにする」ことのできる人の拡がりを進めていきたい。

本学通信教育部の状況をまとめたものは、初めての論稿と思われる。将来において通信教育部の概要と本年度の振り返りについての一助となれば幸いである。

【参考】

- ・ 武蔵野大学ホームページ「武蔵野大学年表」
(<https://www.musashino-u.ac.jp/guide/profile/history.html> / 2020/12/20 最終閲覧)
- ・ 武蔵野大学ホームページ「新型コロナウイルス関連 News 一覧」
(https://www.musashino-u.ac.jp/news-all/news_covid-19.html / 2020/12/26 最終閲覧)
- ・ 武蔵野大学通信教育部ホームページ (<http://www.mu-tsushin.jp/> / 2020/12/26 最終閲覧)